

お知らせ

アートが街にもたらす可能性

2016年12月03日(土)に上田假奈代氏(詩人、詩業家、大阪市立大学研究員、ココルーム代表)、日下慶太氏(コピーライター、写真家、セルフ祭実行委員)、林寿美氏(インディペンデント・キュレーター、国立国際美術館客員研究員)をお招きし、街をアートで遊ぶー地域が生まれ変わるーと題し、第26回秋季シンポジウムを開催いたしました。

○講演1「釜ヶ崎で表現の場を作る喫茶店」詩人でありココルームの代表である上田假奈代先生にココルームや釜ヶ崎芸術大学での活動から地域とそこに暮らしている人たちの言葉を中心とした表現でつないでいくような事例を講演いただきました。

○講演2「アホがつくる町と広告」コピーライターでありセルフ祭実行委員である日下慶太先生に新世界商店街での「商店街ポスター展」、「セルフ祭」を中心に町と人をつないでいく事例を講演いただきました。

○講演3「華氏451の芸術-横浜トリエンナーレ2014がのこしたもの-」インディペンデント・キュレーターである林寿美先生に横浜トリエンナーレ2014の映像とともにそこでの活動や内容について講演いただきました。

○パネルディスカッション

本研究所研究員の藤井達矢准教授を進行役、本学教育研究社会連携推進室長の大坪明氏を指定討論者に加え、会場が一体となり地域とアートの可能性を考えていきました。今日の日本ではさまざまところで地域の活性化を促すような活動がされています。そのなかでも、アートをキーワードに言葉や広告などといった表現方法をもって地域や商店街を活気づかせる、アートが地域に与える効果とその可能性について考えを深める機会となる貴重なシンポジウムとなりました。

